

## About Portland Japanese Garden

### ポートランド日本庭園

ポートランド日本庭園は1963年に日本人の造園家によって設計され、ポートランド市民の熱意が結実する形で1967年に開園しました。弊園は、ポートランド市ワシントンパーク内に位置し、今では年間50万人を超える市民や観光客を迎える都会のオアシスとして知られています。かつて駐米大使であった松永信雄氏をご来園された際、「日本国外にある中でも最も美しく本格的な日本庭園」というお言葉をいただいて以来、日本国外における世界最高峰の日本庭園の一つとして評価されています。

現在12エーカー（約48,560平方メートル）の敷地を有しており、8つの庭園から構成されています。その中には本格的な茶室も含まれています。加えて、庭園から眺めるフッド山も絶景です。

弊園の歴史は、1950年代後半にオレゴン州と日本間で文化交流が盛んになったことがきっかけとなり、第二次世界大戦後における日米友好関係の修復、そして世界平和への願いを表現するものとして庭園築造計画が発足しました。1961年に敷地が選定されると同時に、東京農業大学の戸野琢磨教授が設計を担当され、1963年に設計時は、総面積5.5エーカー（約22,260平方メートル）の敷地に5つの庭園様式を計画。戸野教授は、歴史の中で固有性の高い発展を遂げた各日本庭園様式を表現し、それを通して日本文化を伝え文化交流を促したいと願いました。戸野教授は、自身による造園計画の意志が引き継がれるよう、日本から歴代9名のガーデンディレクターを派遣し、オリジナルの5つの庭園の施工と維持管理を担当させました。2015～2017年には施設拡張計画プロジェクト「Cultural Crossing」のキャンパスが完成。既存の庭園に入る前の「門前町」空間として「カルチュラル・ビレッジ（Cultural Village）」の建築を隈研吾氏、外構及び造園を同園のガーデンキュレーター内山貞文が担当。キャンパス内には芸術文化教育施設としての図書館、クラスルーム、展示室等を設置。来園者の憩いの場として広場、Umamiカフェ、ギフトストアも新設しました。さらに3つの新しい庭（前庭、坪庭、盆栽園）が拡張敷地内に誕生しました。

創設以来、ポートランド日本庭園は、美と静寂の場所にとどまらず、学びの場としての役割も果たしてきました。日本庭園は生きた「教室」として、訪れるすべての人に体験学習の大きな機会を提供しています。庭園文化の紹介や、四季の移ろいと共に五節句（お正月、ひな祭り、子供の日、七夕、お月見）にちなんだ行事や展示に加え、日本古来の自然観や職人伝統文化に通じる工芸品や現代美術の展覧会、茶道や華道のデモンストレーションを展開しています。また、伝統から最先端を網羅する日本文化に関するレクチャーシリーズやワークショップを定期的開催。多くの方々が往古来今の日本に触れていただければと願っています。